

中国の住宅事情学ぶ

カンディハウスがトークイベント

カンディハウス（本社・旭川市）は10月28、29日の両日、「カンディハウススタイル2010 オータム道央」を札幌市内の同社道央支店で開催した。

今年6月に旭川家具産地展で発表した新商品の発表会で、28日はトークイベント「中国・上海家具・インテリアマーケット

トについて」も開催。リビングシングス（本社・札幌市）代表でインテリアコーディネーターの墨谷展子氏が、上海のインテリアマーケットについて、自身がコーディネーターとした事例を基に講演した。

上海では大理石を多用した住宅が好まれるが、床が石からフローリング

な点も多い」（墨谷氏）と述べた。

家具はシンプルモダンが普及しつつあるが、クラシック家具の需要も高い。風水の影響が色濃く残っており、インテリアにも反映されているという。

墨谷氏がコーディネーターとしたのは中国の富裕層が別荘として保有するヴィアと呼ばれる戸建住宅。現場は職人が住み込んで作業するため、整理整頓されていないという。

「作業終了時に整頓する日本の現場と比べて、文化の違いを感じた」。

墨谷氏は親密なコミュニケーションが住まいづくりのポイントと述べ、「異国での業務を通じて改めて実感できた」と述べた。



当日は約80人が参加した

へ、壁は塗装からクロスに移行してきているという。「中国でも住空間が変わりつつあるが、カーテンのクロス張りなど細部は不十分